

九州北部も6月17日に梅雨に入りました。前回熊本全県が九州北部という分け方に違和感があるとお伝えしました。今回九州北部と南部の分け方を調べました。気象予報区分表では九州南部は宮崎県と鹿児島県ですが鹿児島県には島しょ部分が有り最南端の与論島迄が九州南部と記されていました。地図上で確認すると熊本県が九州北部というのは一目瞭然です。これで今迄の疑問がすっきりしました。

阿蘇に「地図の源」という珍しい地点を見つけました。早速調査に行ってきました。此処は北緯33度00分00秒、東経131度00分00秒の交点でした。阿蘇ゼロポイントとも呼ばれています。九州を測量する際には基点となった場所です。永いこと地図の源となってきた場所に土地家屋調査士会の制度が発足して50年を記念して熊本県土地家屋調査士会が記念碑を建てたものです。設置されている場所は菊池市を出発して菊池阿蘇スカイラインを走ります。途中菊池渓谷を経由し阿蘇の外輪山を目指します。



阿蘇市に入ると間もなく左前方に地図の源という立て看板が有ります。約50m歩くと案内が書かれた碑があります。



碑文の全文を紹介します。

「地図に関わってきた私たち土地家屋調査士の制度が誕生して50年を迎えました。記念すべきこの年は、伊能忠敬が日本地図を作るため測量の旅に出発してから丁度200年になります。伊能忠敬も丸い地球を平らな地図として表すことに随分苦労したようですが、現在では、地図の多くは全国を座標系と呼ばれる19の区域に分け、それぞれを平面とみなして作製されています。

今、あなたが立っているこの位置(東経131度00分00秒、北緯33度00分00秒)は、九州の大部分を含む座標系(平面直角座標系第II系)の中心です。

座標系の中心を原点といいます。一つの座標系の中にある、例えば学校や病院、あるいはあなたが住んでいる家の位置は、この原点からの南北方向の距離と、東西方向の距離で表すことができます。これらを平面上に表示することにより地図が作られます。いわばこの原点は「地図の源」と言えます

これらの座標系の基となる日本測地系と世界測地系の経緯度が、人工衛星を使った測量により、ずれていることが判明いたしました。現在、これを一致させる作業が進められています。その結果、この原点の位置が約400m南東に移動することになります。

そこで、土地家屋調査士制度制定50周年にあたり、永い間「地図の源」となってきたこの原点を、記念の碑として後世に残したいと思います。」

2000年10月1日 熊本県土地家屋調査士会

真のE131, N33は記念碑の場所より約400m離れていますが、おおよその場所をgoogle mapで検索しました。付近は菊池川の源流部にあたり鬱蒼とした森林部です。電波の届かない所かも知れませんが一人で立ち入ることは危険です。超マニアックなモニュメントでした。

